

## 第2次秋田市子ども・子育て未来プラン質問シート（回答）

平成28年度第1回秋田市社会福祉審議会児童専門分科会（子ども・子育て会議）の資料1「第2次秋田市子ども・子育て未来プランの進捗状況について」に対し、委員から提出された質問と質問に対する回答をまとめました。

### ○ 取組・事業全般について

子ども・子育て未来プランの評価を見る限り、達成してきていることをうれしく思います。ネウボラの取組・産前・産後ケア事業についても期待しています。
全体として達成率が高く評価できる。 特に、待機児童についてはここ数年連続ゼロを達成。関係各位の努力の成果である。 一方、国は幼児教育センターを設置する等量的拡大から、教育の内容充実を重視し始めている。 秋田市においても、教育内容充実に転換すべき時期に来ていると考える。

### ○ 個別の取組・事業について

取組・事業名	ご質問等	回答
施策1-2-8 一時預かり事業	訪問していると、預けたい時に預かって貰えないということを聞いたりします。保育所に7日以上前から申し込むことを知らない人もいますので、どのようにすれば利用できるのか。情報の周知をお願いしたい。	申込み時期や受付等は各施設で対応しているところですが、入所案内やホームページ等での周知内容や方法について、再検討いたします。
施策1-2-8 一時預かり事業	預けたい時に預けられるように（例えば、病院受診時など急な用事の場合）、公立保育所が民間移行し、保育士何名かを活用して、預かれる空間、施設などを新設する予定はありますか。	現段階で施設などを新設する予定はありませんが、保護者がより使いやすくなるよう、各施設における保育士確保などに努めてまいります。
施策1-2-8 一時預かり事業	幼稚園型一時預かり事業達成率34.9% 評価Cとなっているが、目標値の見直しを望む。 幼稚園及び認定こども園における一時預かり83,671人日は、週2日程度の一時預かりを利用した場合を基準と仮定すれば710人（幼稚園児及び1号認定児の20%相当）とかなり多い。これはかなりの児童が2号になっているためと考えられる。尚、2号認定の目標値222,032人の意味は何か。2号は幼稚園型一時預かり事業の対象外である。	目標値には本来含まれない児童を含んでいたことから、来年度予定している本計画の中間年度の見直しの際に修正いたします。

<p>施策4-1-1</p> <p>ワーク・ライフ・バランスに関する広報・啓発</p>	<p>ワークライフバランスの啓発活動実績が不明である。</p>	<p>ニーズ調査で把握する数値を指標としているため、実績値が入力されていなかったものです。評価は、本計画の中間年度および最終年度のニーズ調査により実施してまいります。</p> <p>なお、27年度はワーク・ライフ・バランスの推進を図るため、パンフレットを配布したほか、秋田市オリジナル父子手帳を作成しました。</p>
<p>施策4-1-2</p> <p>育児休業制度等の周知および啓発</p>	<p>育児休業啓発は高評価を得ているが、実際に育児休業を取得する割合はかなり低いと思われる。27年度の場合、ゼロ歳児の5割以上が保育施設に預けたいとしている実態がある。この理由を市としてはどう捉えているか。</p> <p>例えば、育児休業1年間取得後の保育施設入園を保障、ゼロ歳児を家庭で、見る場合の補助をする等は如何か。</p>	<p>本市では少子化傾向が続いているものの、女性の社会進出や共働き世帯の増加などにより保育施設の利用者は増加し、ニーズも多様化しているものと捉えております。</p> <p>こうしたことから、保育士の確保を進める施策など、新たな取組も行うとともに、来年度、本計画の中間年度に実施を予定しているニーズ調査を踏まえ、保育需要に対応してまいります。</p>